

2022年12月期 第2四半期 機関投資家向け決算説明会

YCP Holdings (Global) Limited
2022年8月16日





アジェンダ

はじめに

2022年12月期 第2四半期 業績

各事業のご紹介：マネジメントサービス事業

各事業のご紹介：プリンシパル投資事業

2022年12月期 業績予想

質疑応答

はじめに





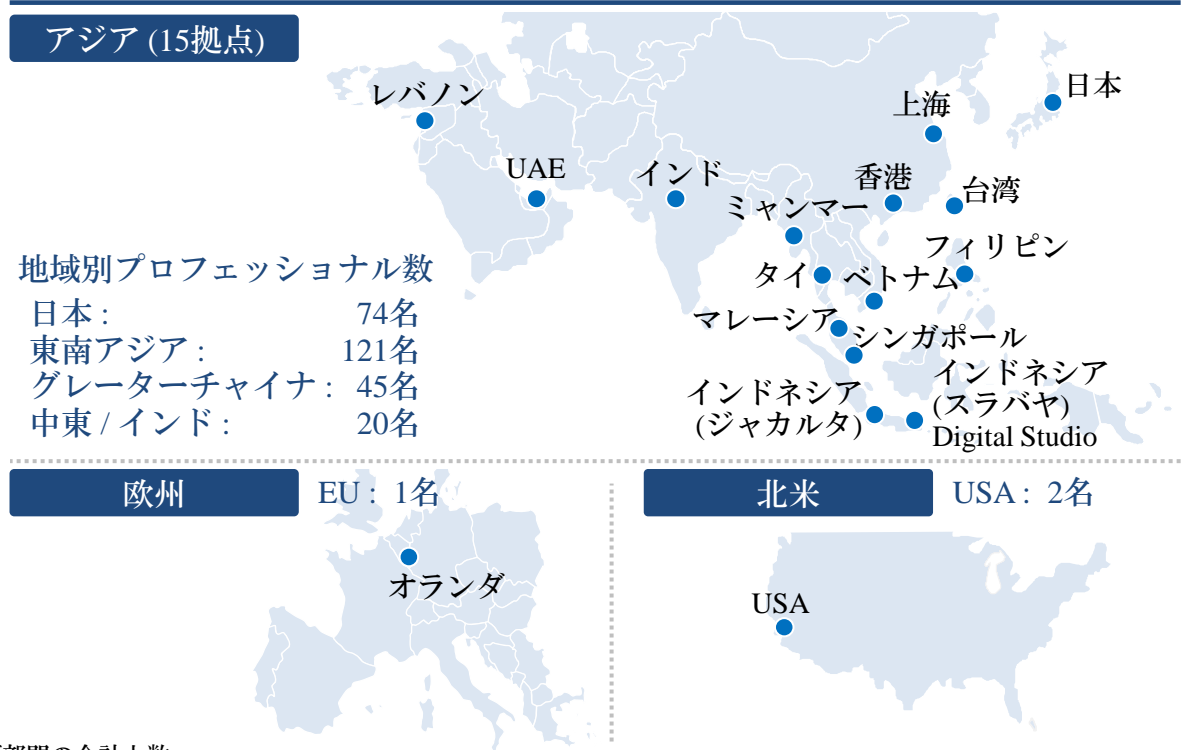
会社概要

YCPグループは、2011年8月創業の株式会社ヤマトキャピタルパートナーズ (現・株式会社YCP Solidiance)にて事業を開始し、日本人以外のプロフェッショナルも積極的に雇用し国際色豊かな組織を実現するため、グループの社名をYCPに改めると共に2013年に香港を拠点とするホールディングス化を実施。世界情勢の変動や東南アジアの台頭を背景に、当社グループの売上収益や人員構成における東南アジアの比重が高まったことで、2021年にハブ拠点として優位性を持つシンガポールに当社 (YCP Holdings (Global) Limited)を設立し、グループ統括機能を設置

YCPグループ概要

持株会社商号	YCP Holdings (Global) Limited
持株会社住所	3 Fraser Street, DUO Tower #05-21, Singapore
グループ事業	1. マネジメントサービス事業 2. プリンシパル投資事業
グループ設立	2011年8月
持株会社資本金	35,422,430米ドル
グループ代表者	石田 裕樹
グループ社員数*1	プロフェッショナル数: 258名 投資先を含む総社員数: 437名

グローバル拠点*2



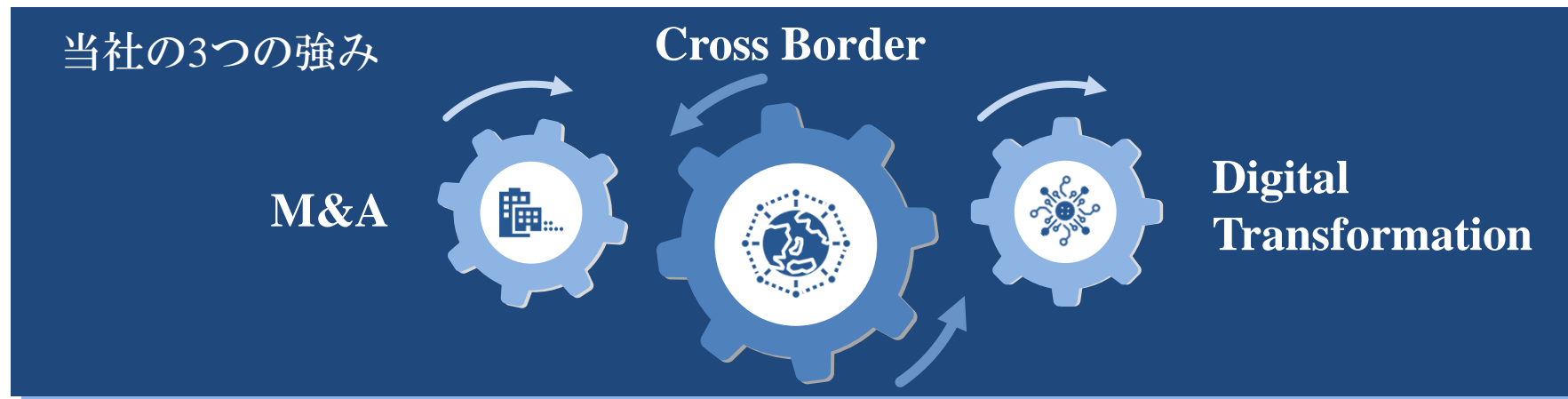
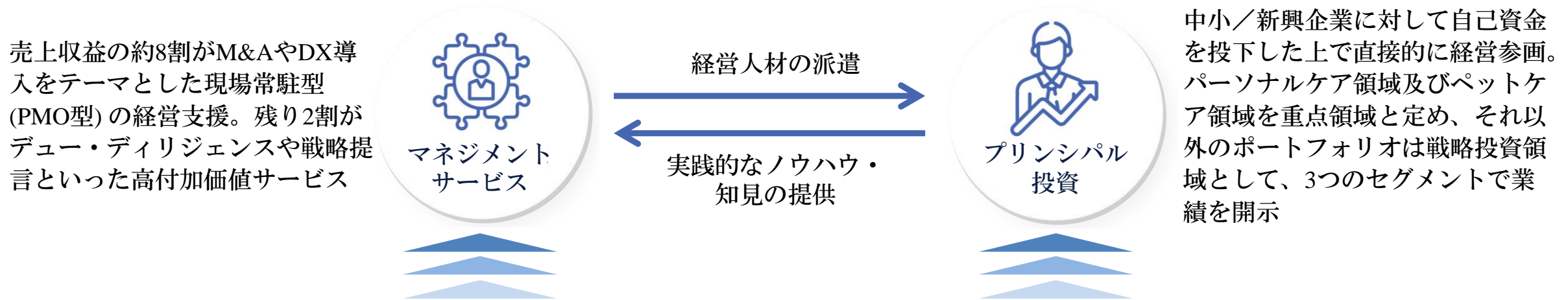
*1: 2022年6月30日現在。地域別プロフェッショナル数は、マネジメントサービス部門とオペレーションズ部門の合計人数

*2: 拠点数は本資料提出日現在の数



事業概要及び当社グループの報告セグメント

当社グループはクライアントへ各種経営支援を提供する「マネジメントサービス」と、自己資本によってリスクマネーを提供する「プリンシパル投資」の2つの事業を展開。グローバルネットワークを通じたクロスボーダーでの事業展開、M&Aの専門知識、そしてデジタルトランスフォーメーションへの取り組みの3つを強みに持つ



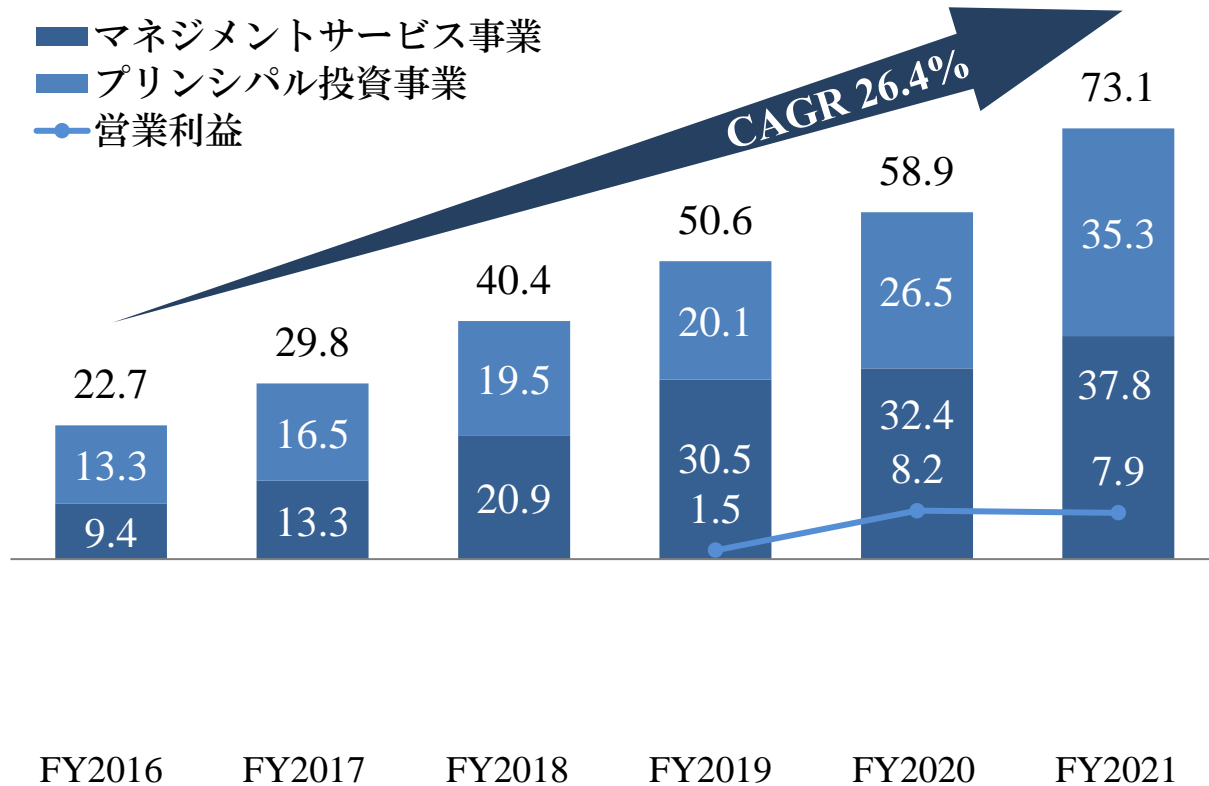


過年度の業績推移

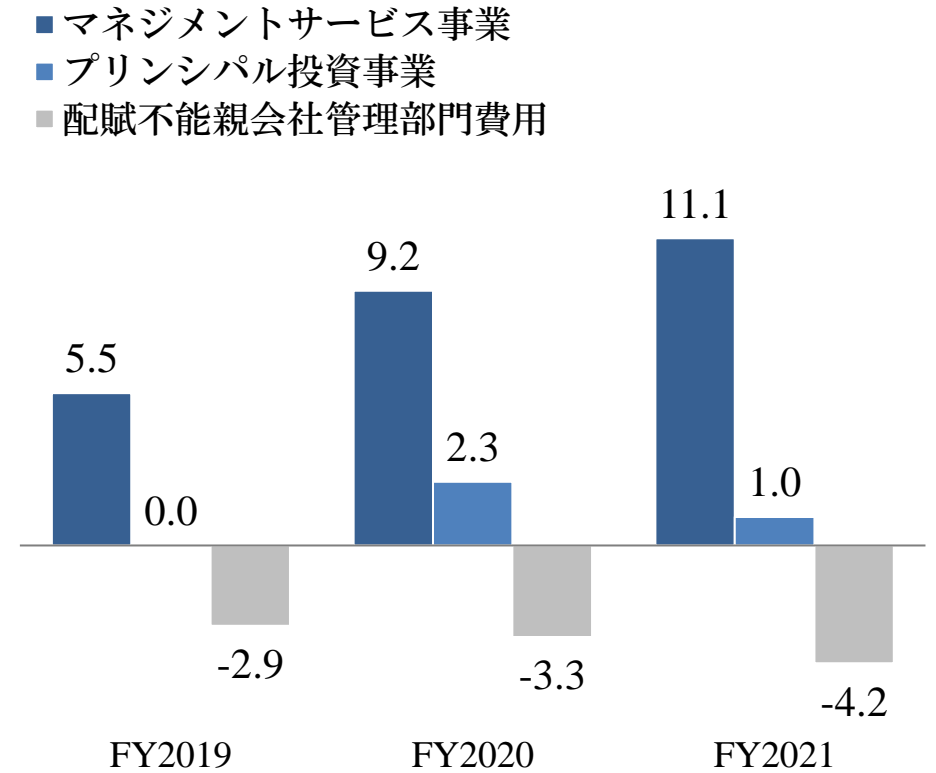
グループ創立10年で売上73.1百万米ドル (99.9億円*)、営業利益7.9百万米ドル (10.8億円*) を達成。

直近5カ年の年平均成長率は26.4%

売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



セグメント損益推移 (百万米ドル)



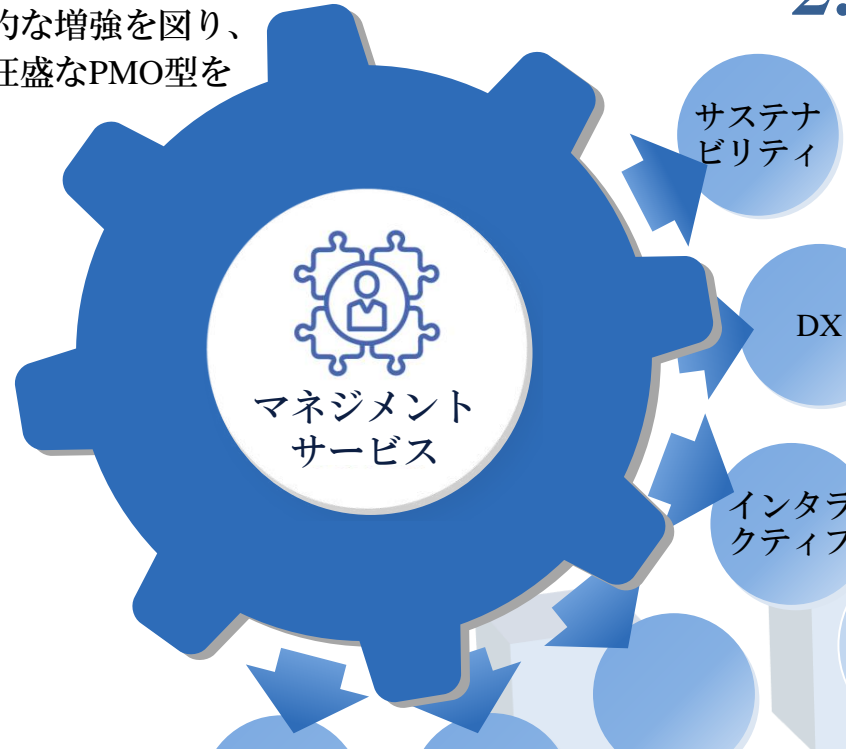
* 日本円への換算は、1ドル = 136.69円 (2022年6月30日の為替レート) により計算



グループ全体の成長戦略

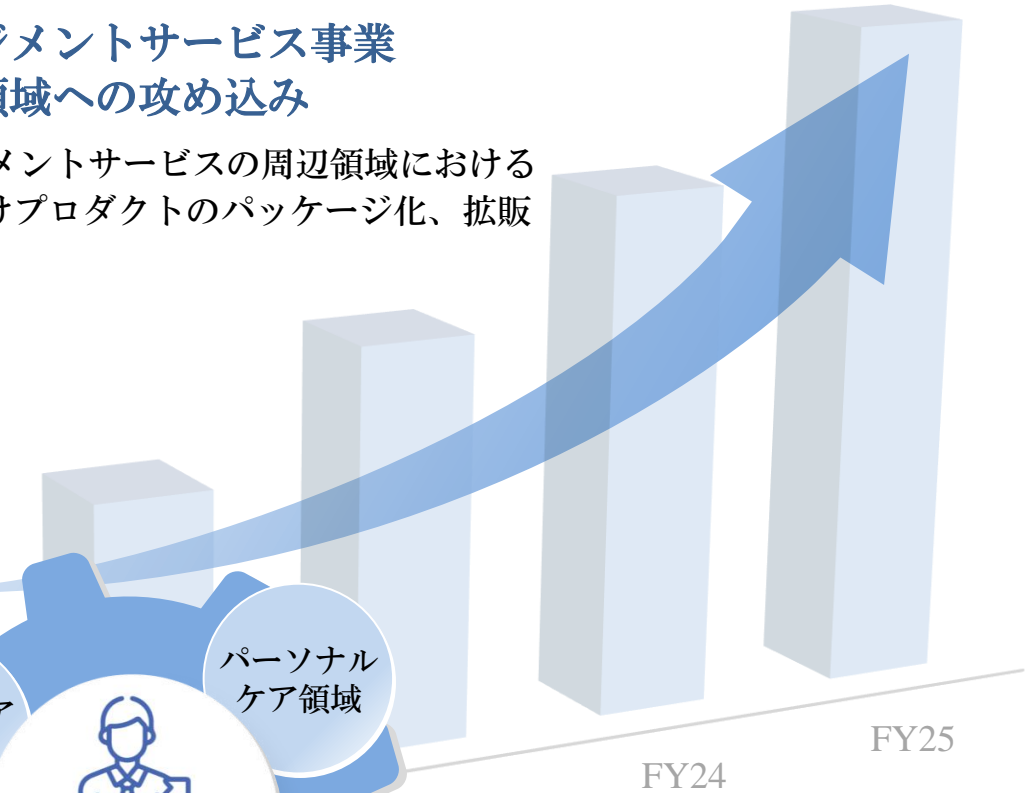
1. マネジメントサービス事業の オーガニック成長

人員体制の継続的な増強を図り、
国内外で需要の旺盛なPMO型を
継続的に獲得



2. マネジメントサービス事業 周辺領域への攻め込み

マネジメントサービスの周辺領域における
B2B向けプロダクトのパッケージ化、拡販



3. プリンシパル投資事業による グループの成長加速

既存事業の強化に加え、DXやM&Aという
観点で、アジア全域を対象とした積極的な
新規投資シーズの発掘

2022年12月期 第2四半期 業績





FY2022 2Q 業績ハイライト

FY2022 2Q業績 (累計)

売上収益

39.7 百万米ドル
(54.3億円^{*1})

YoY (増減)

+11.3%
(+37.6%^{*2})

予算進捗率

101.1%

営業利益

4.2 百万米ドル
(5.8億円^{*1})

YoY (増減)

-6.6%
(+15.4%^{*2})

予算進捗率

85.9%

四半期利益

2.6 百万米ドル
(3.6億円^{*1})

YoY (増減)

-7.4%
(+14.5%^{*2})

予算進捗率

65.3%

ハイライト

- FY2022 2Qまでの累積業績は、売上収益はYoYで増益となったものの、営業利益、四半期利益は減益で着地
- コア事業のマネジメントサービス事業は、Q2においては急激な円安の影響が大きかったものの、Q1が好調だったこともあり、YoY+9.7%の増収、+4.1%の増益を達成
- プリンシパル投資事業では、YoY+12.9%の増収、-42.0%の減益となったが、保有するアイペットホールディングス社の株式評価損(-1.0百万米ドル)が大きく、その影響を除外するとYoY+65.5%の増益であった
- 営業利益は、上述した保有株式評価損(-1.0百万米ドル)及び急激な円安の影響を受けYoY-6.6%の減益となった
- 当期利益については、税務負担の大きい子会社で利益及び法人税が拡大した一方で、税務負担の小さい子会社で損失が発生したため、当初計画に比して連結ベースでの実効税率が悪化、予算達成率は65.3%にとどまった

*1：日本円への換算は、1ドル=136.69円(2022年6月30日の為替レート)により計算

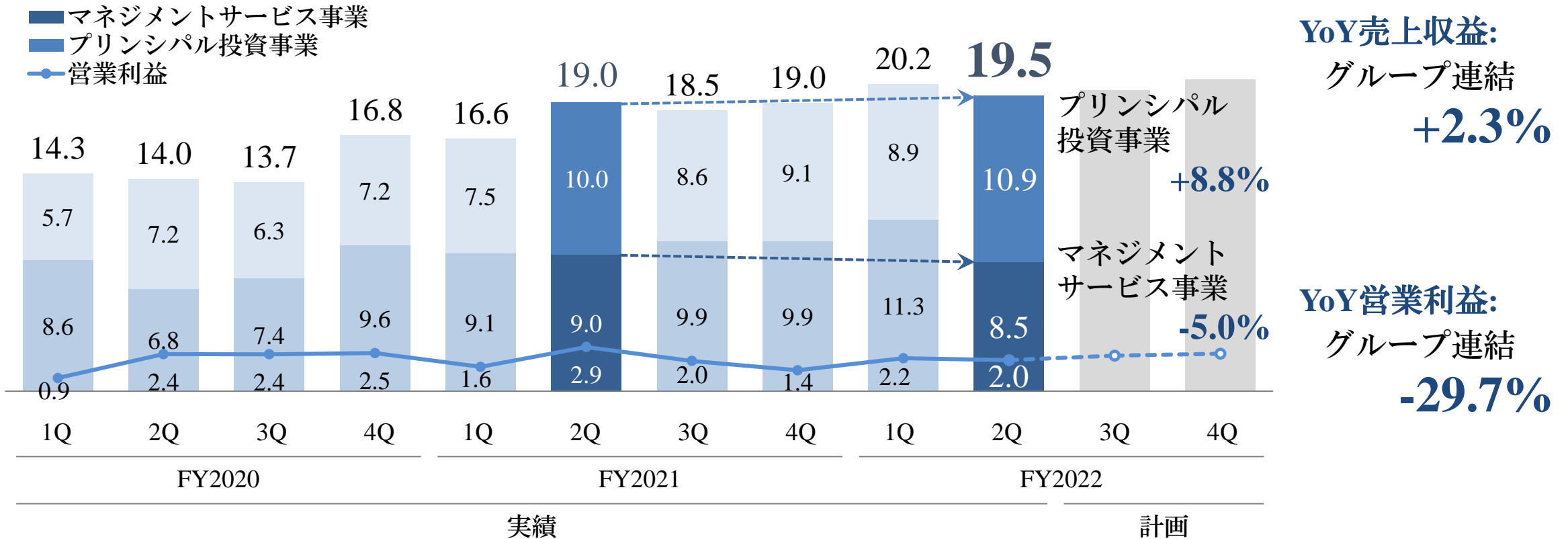
*2：1ドル=110.61円(2021年6月30日の為替レート)を使用した前年度の業績に対する円貨ベースでの前年同期比



FY2022 2Q グループ連結業績

FY2022 2Qは売上収益19.5百万米ドル (26.6億円*)、営業利益2.0百万米ドル (2.8億円*) で着地。米ドル高の影響を受けたマネジメントサービス事業の減収を、プリンシパル投資事業の増収で補った形。営業利益については、一過性の保有株式に係る評価損 (-0.8百万米ドル) を計上した影響で減益となった

売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



* 日本円への換算は、1ドル = 136.69円 (2022年6月30日の為替レート) により計算

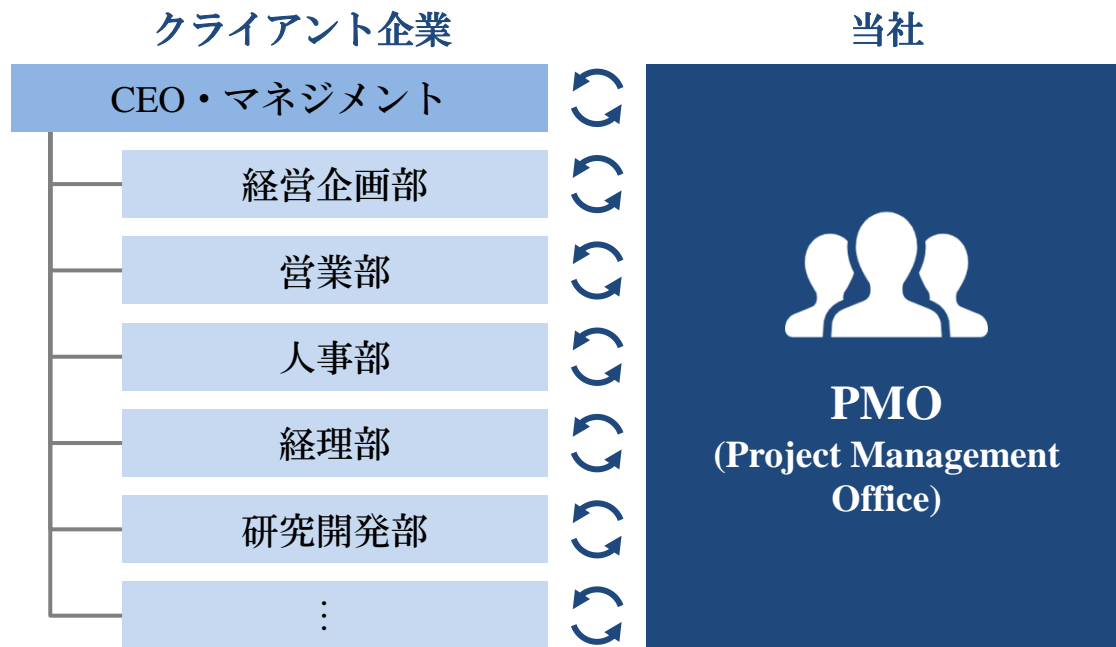
各事業のご紹介： マネジメントサービス事業



マネジメントサービス事業のご紹介

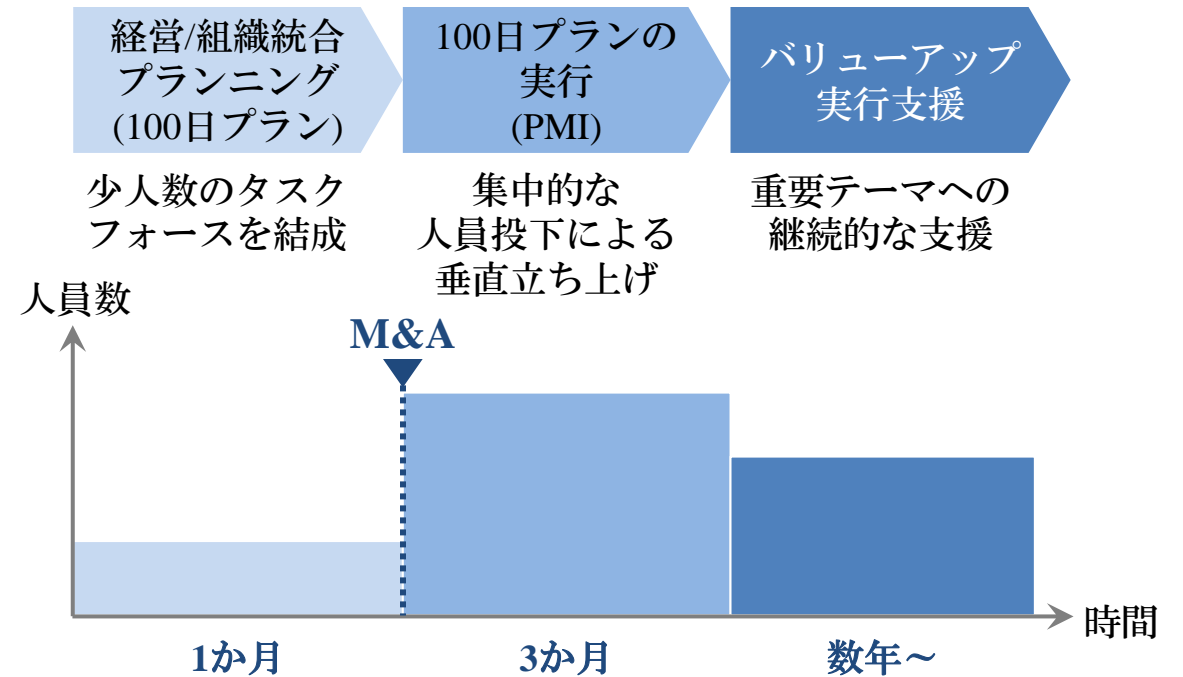
YCP Solidianceのブランドで展開するマネジメントサービス事業では、M&AやDX導入をテーマにした現場常駐型 (PMO型) の経営支援サービスをアジア全域で提供し、事業部売上の約8割を占める

PMO (Project Management Office) とは



M&AやDX導入など大きな企業変革を伴う際に、部門を横断して柔軟に実行支援をサポートする特務組織

M&AにおけるPMO支援のイメージ



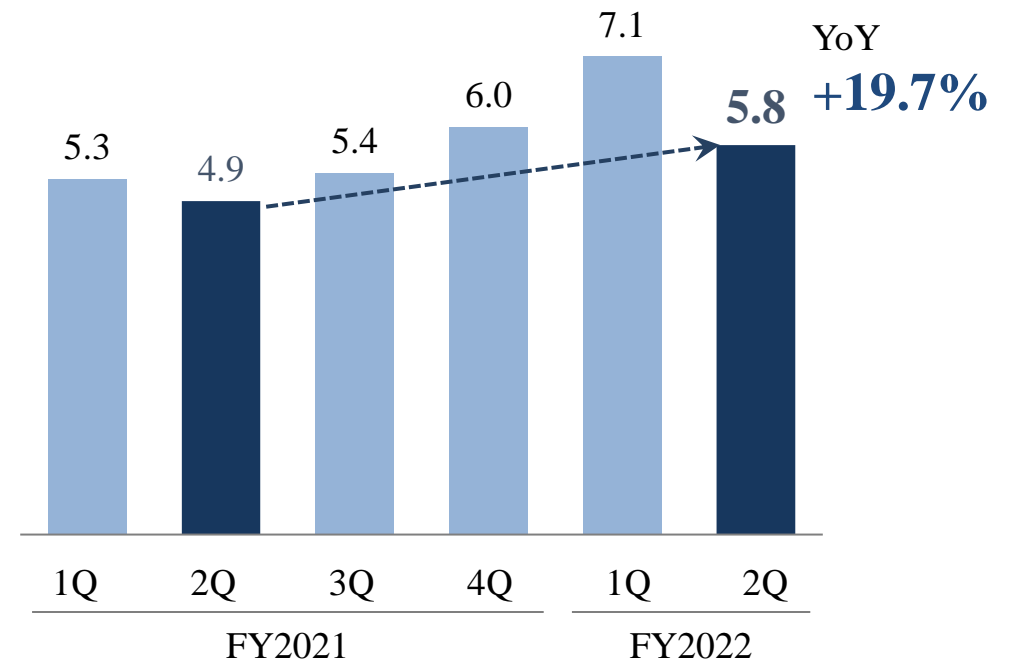
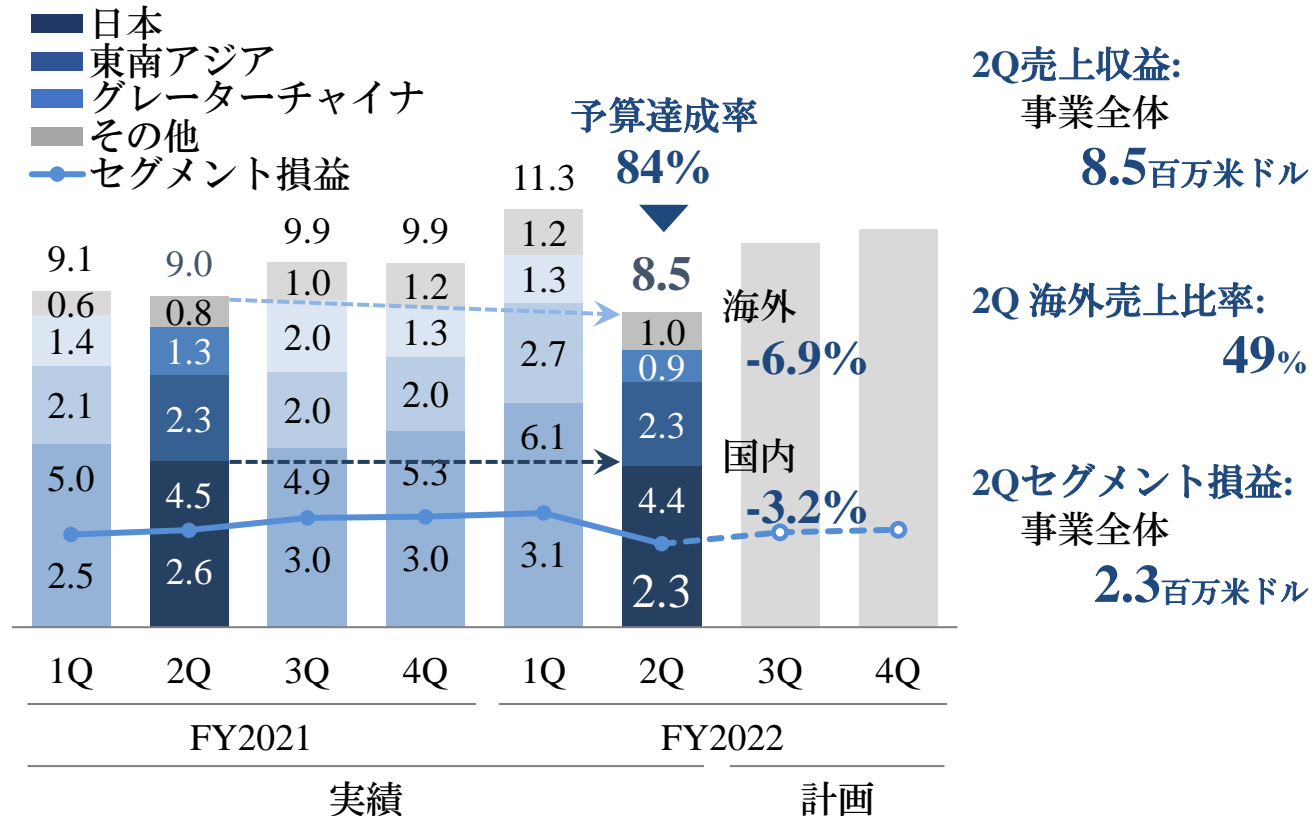
M&A実行の1か月前から支援を開始し、PMOとして長期に渡って常駐型での支援を継続

マネジメントサービス事業の業績

FY2022 2Qは売上収益8.5百万米ドル (11.7億円*¹)、セグメント損益2.3百万米ドル (3.1億円*¹) で着地。日本拠点においては急激な米ドル高の影響で、ドルベースでは減収となったものの、ドル換算前の現地通貨ベースでは増収となり事業拡大は継続

(参考)
現地通貨ベースでの日本売上収益推移 (億円)

業績推移 (百万米ドル)



* 日本円への換算は、1ドル = 136.69円 (2022年6月30日の為替レート) により計算

各事業のご紹介： プリンシパル投資事業





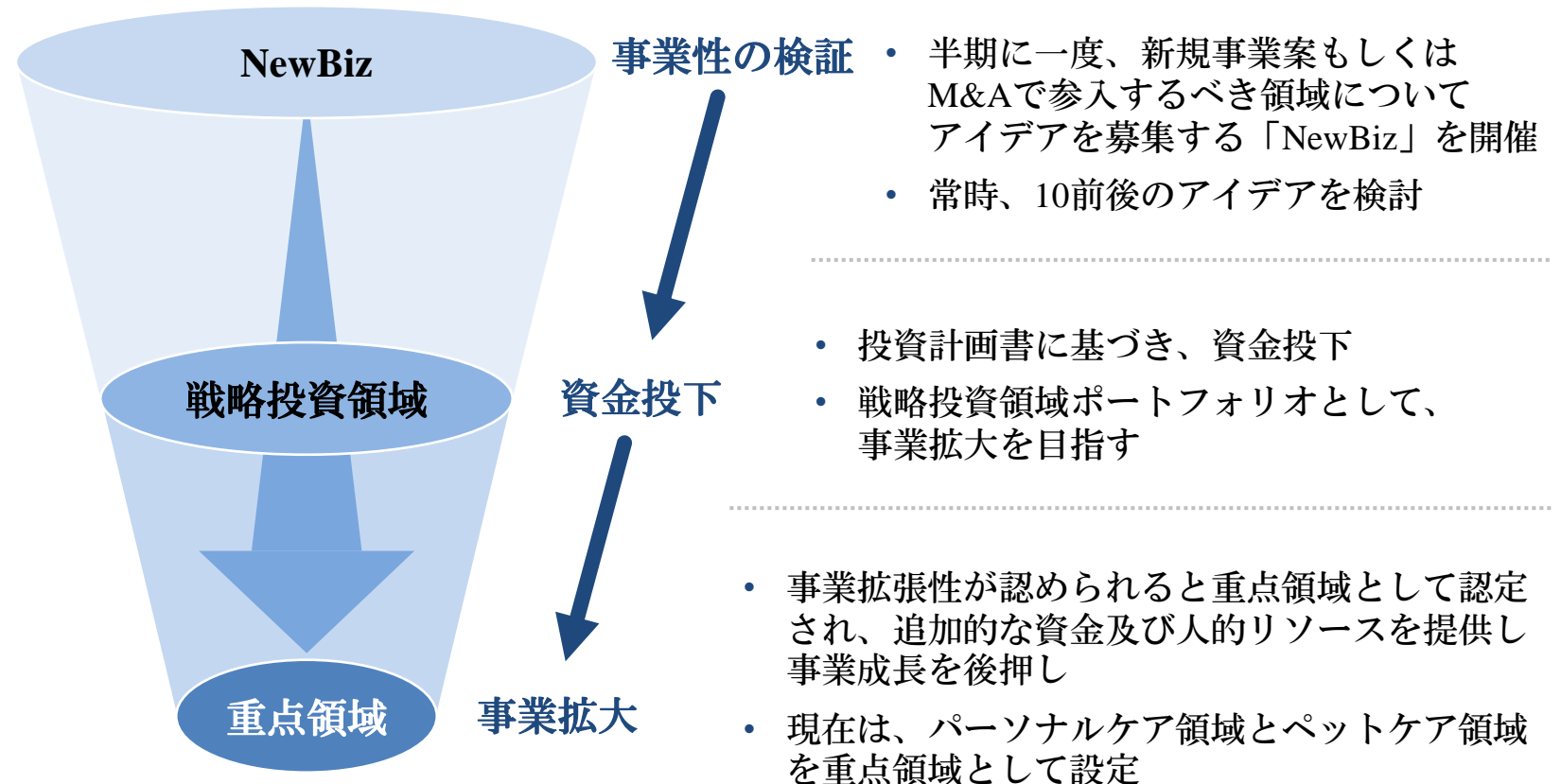
プリンシパル投資とは

マネジメントサービス事業を通じて培った経営人材のプラットフォームを活用し、中小 / 新興企業に対して自己資金を投下

投資要件

1. 売上100百万米ドル以上の事業規模が見込まれる
2. グループの人材プラットフォームを活用しグローバル展開が可能
3. 投資規模が借入を含めて20百万米ドル以下
4. 30%以上のIRR (内部収益率)
5. グループのプロフェッショナルにとって、「Strive for Growth」を実現できる良い学びの機会

プリンシパル投資事業の立ち上げから拡大までの流れ



パーソナルケア領域のご紹介

パーソナルケア商材をアジア全域で展開。オンラインで直接販売を行うD2Cモデルを採用し、当社のグローバルプラットフォームを活かし、海外へも積極展開

主要ブランド



事業戦略



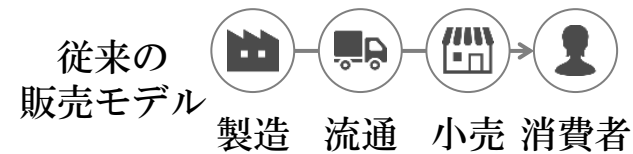
DX



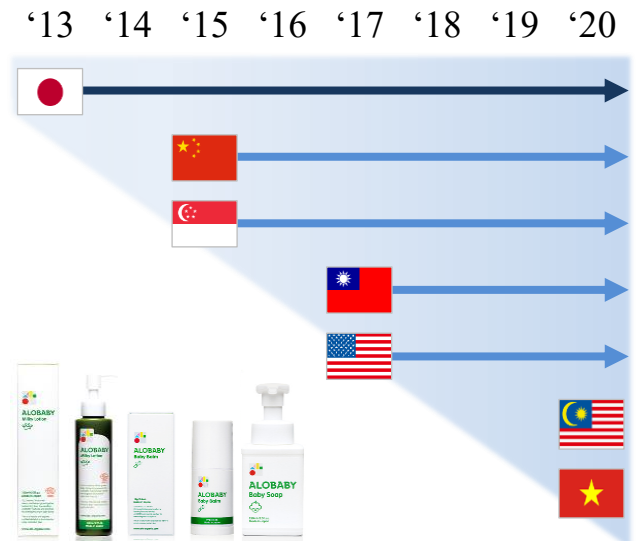
クロスボーダー



SOLIAのD2Cモデル



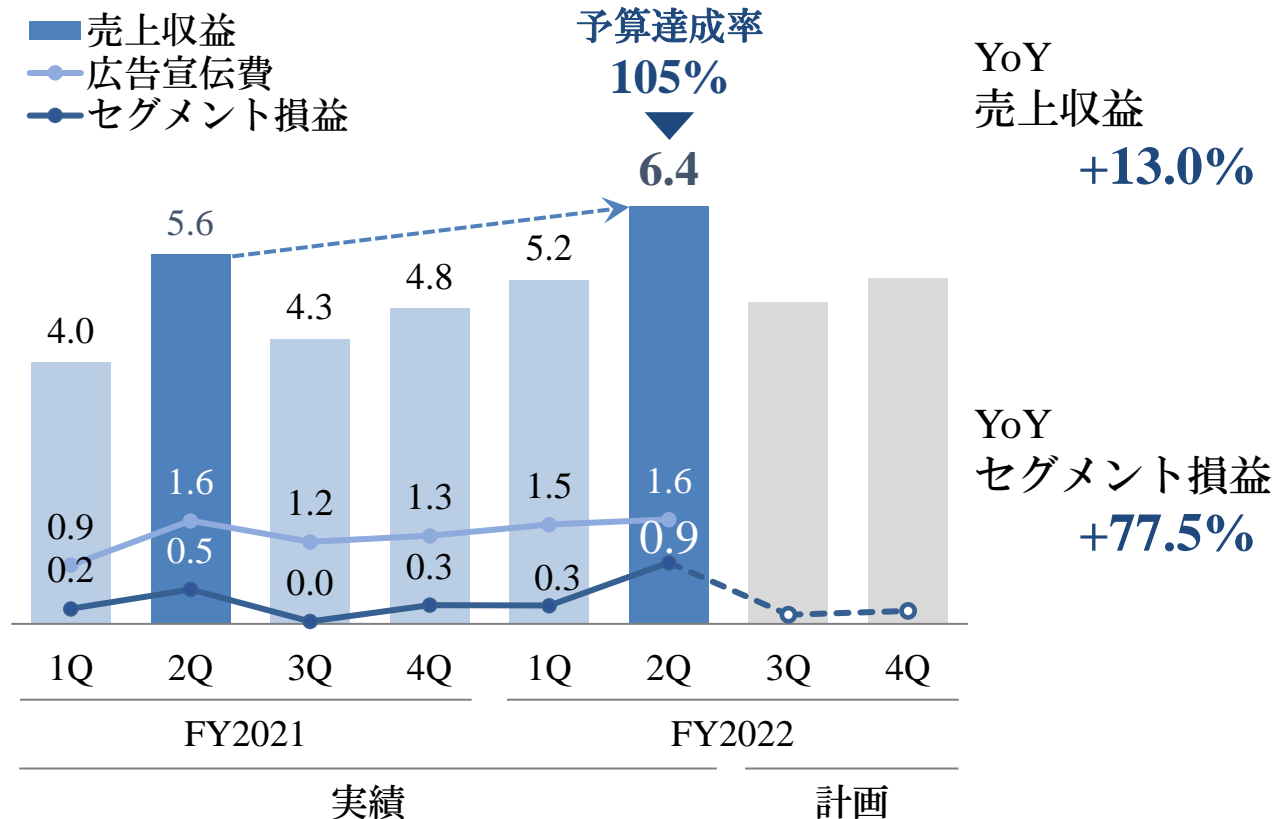
ALOBABYの海外展開の経緯



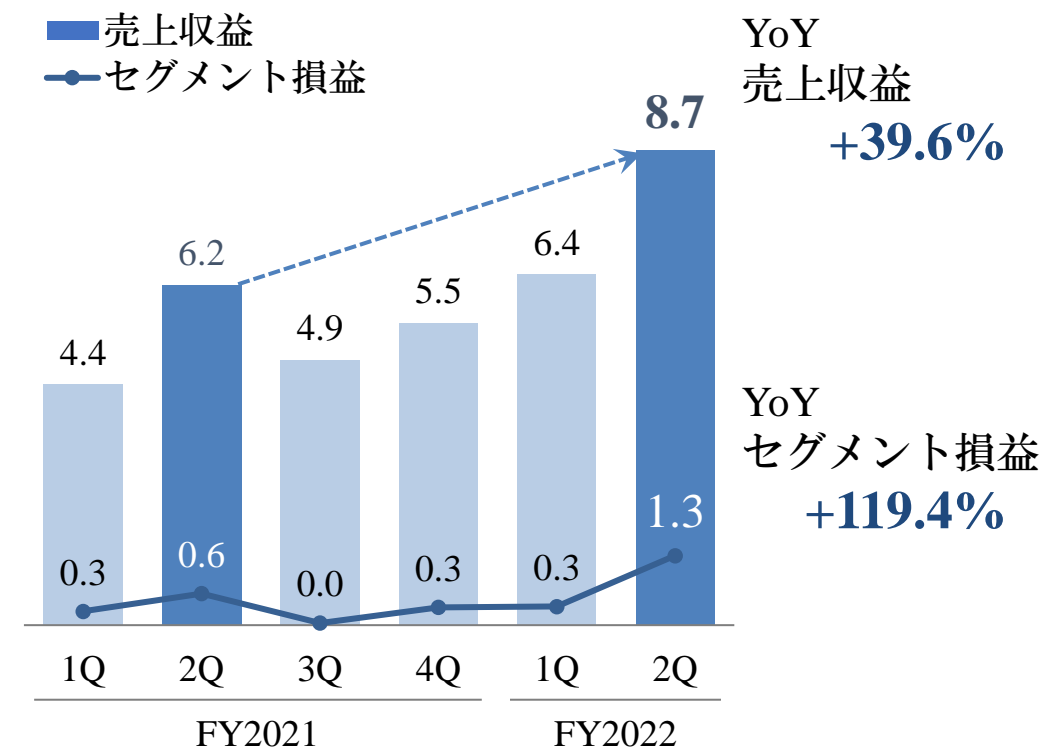
パーソナルケア領域の業績

FY2022 2Qは売上収益6.4百万米ドル (8.7億円*)、セグメント損益0.9百万米ドル (1.3億円*) を達成。主要ブランドの「ALOBABY」に加え、新ブランドも順調に拡大し、為替の影響を除外した現地通貨ベースでは、YoY売上収益+39.6%、YoYセグメント損益+119.4%と大幅な成長を実現

業績推移 (百万米ドル)



(参考) 現地通貨ベースでの業績推移 (億円)



* 日本円への換算は、1ドル = 136.69円 (2022年6月30日の為替レート) により計算

ペットケア領域のご紹介

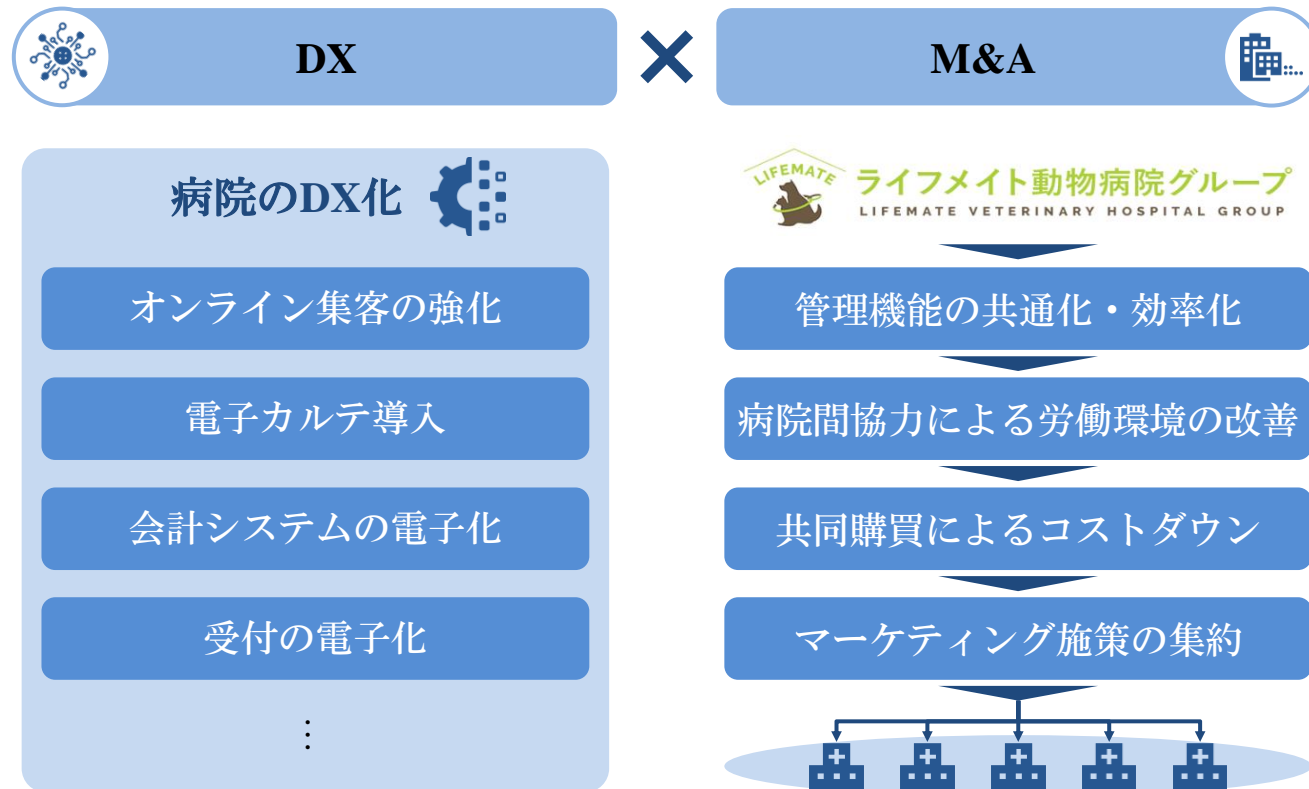
事業承継による複数動物病院をグループ化、および承継先病院のDX化を通じて事業をスケール

動物病院の運営



事業承継による複数の動物病院をグループ化。現在は、関東及び北海道において9病院を運営しており、加えて常時複数のM&A案件を検討している

事業戦略



大型動物病院の事業承継

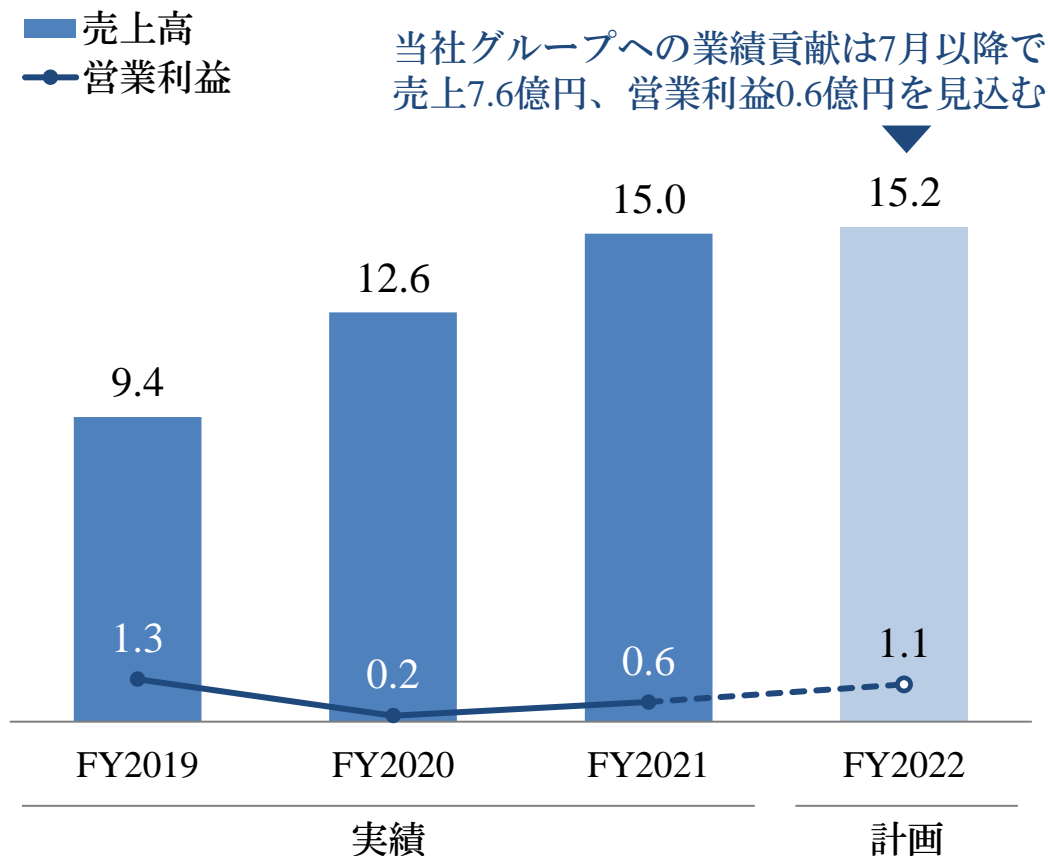
2022年7月に、株式会社アニマルメディカの動物病院事業を承継。動物向けの高度医療を担う二次診療や夜間救急診療を展開する売上15.0億円 (2021年通期) の大型病院グループ

(株)アニマルメディカの事業内容



練馬、文京、府中、八王子と東京都内で4病院を運営。緊急手術対応や、CT・MRI・ICU装置など最新の医療設備を備え、動物向けの高度医療である二次診療を提供する

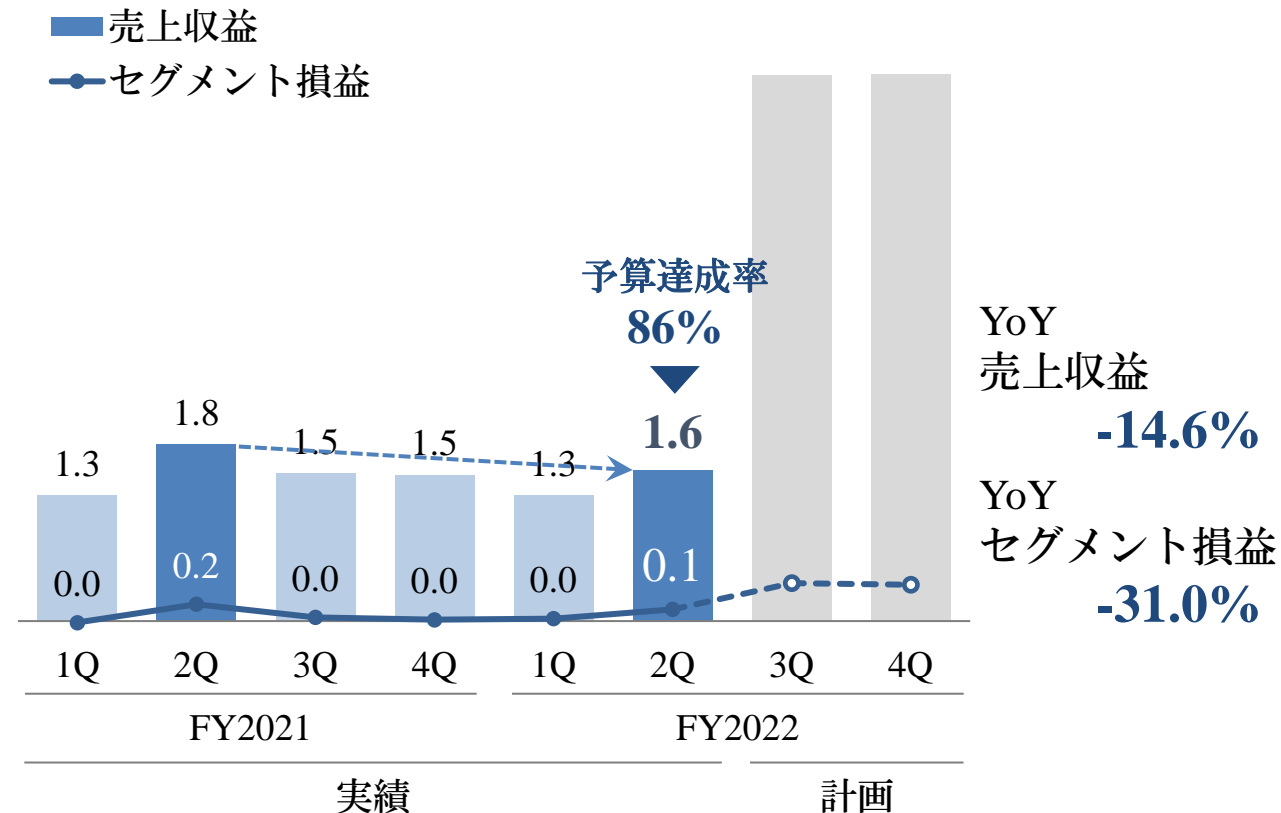
(株)アニマルメディカの業績推移 (億円)



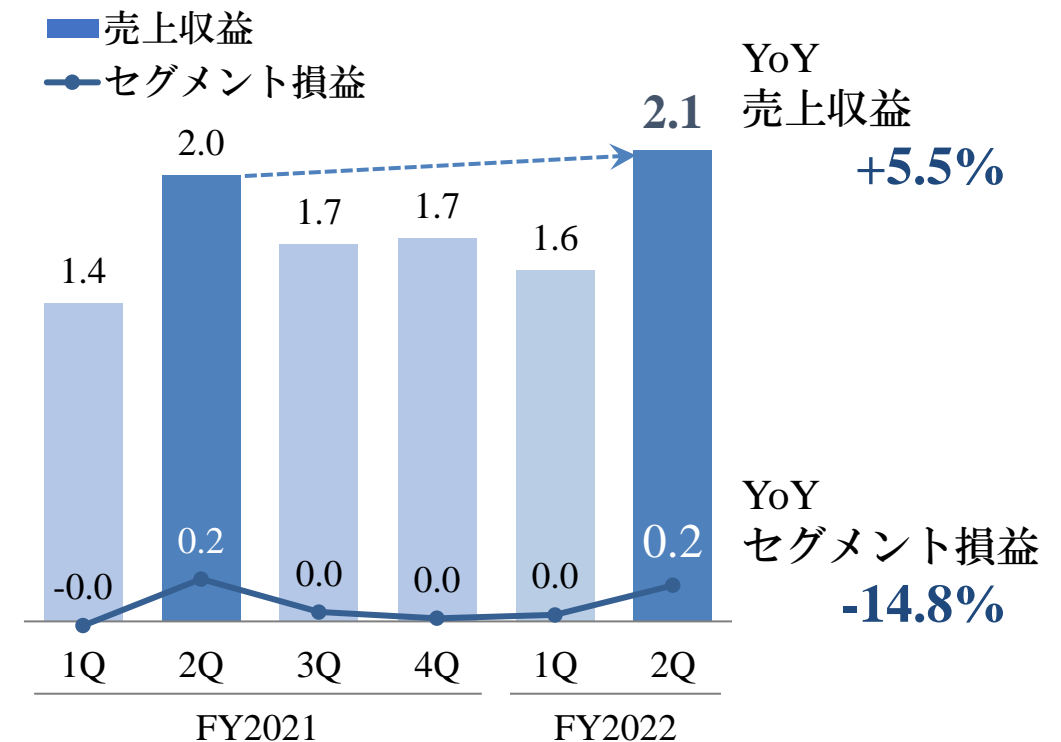
ペットケア領域の業績

FY2022 2Qは売上収益1.6百万米ドル (2.1億円*)、セグメント損益0.1百万米ドル (0.2億円*) で着地。円安の影響を除外した現地通貨ベースでは、YoY売上収益で+5.5%の増益となったものの、一過性の棚卸資産に関わる評価損 (-0.6百万米ドル) が発生した影響で減収となった。また、前項のアニマルメディカ承継により、下期は大幅な業績改善を見込む

業績推移 (百万米ドル)



(参考) 現地通貨ベースでの業績推移 (億円)



* 日本円への換算は、1ドル = 136.69円 (2022年6月30日の為替レート) により計算



戦略投資領域のご紹介

将来の重点領域となるべきビジネスシーズに対しても、戦略投資領域として積極的に投資を実行。
主には、シンガポール及び香港における日本食レストランや、シニア向けサービス等を展開

飲食領域



GO Food



「食を通じて、世界中の人々により多くの笑顔届けたい」という
ミッションのもと、調理プロセスの最適化、徹底的なオペレーション
の効率化を行い、ハイクオリティな日本食ブランドを海外へ展開

シニア領域



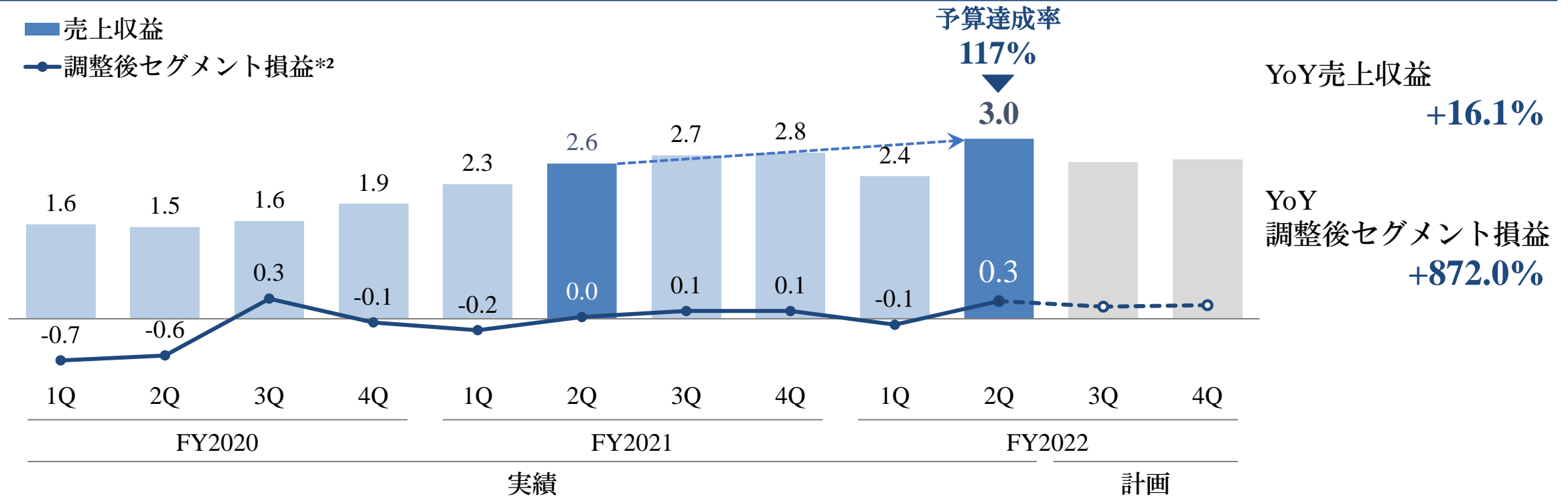
管理不要・後継者不要・宗派不問
の自動搬送式納骨堂の販売事業を
展開



戦略投資領域の業績

FY2022 2Qは売上収益3.0百万米ドル (4.1億円*¹)、調整後*²セグメント損益0.3百万米ドル (0.4億円*¹) で着地。新型コロナの影響が軽減したことで飲食事業の業績が大幅に改善し、YoY売上収益は+16.1%の増収、YoY調整後セグメント損益は+872.0%の大幅な増益となった。ただし、保有するアイペットホールディングス社の株式評価損 (-0.8百万米ドル) の影響で、調整前セグメント損益は0.5百万米ドルの減益となった

業績推移 (百万米ドル)



*1: 日本円への換算は、1ドル=136.69円(2022年6月30日の為替レート)により計算

*2: 調整後セグメント損益=子会社及び事業の売却損益や金融資産の評価損益、バーゲン・パーチェスによる利得など、本業以外の活動による一過性の非資金取引を除外したセグメント損益

2022年12月期 業績予想

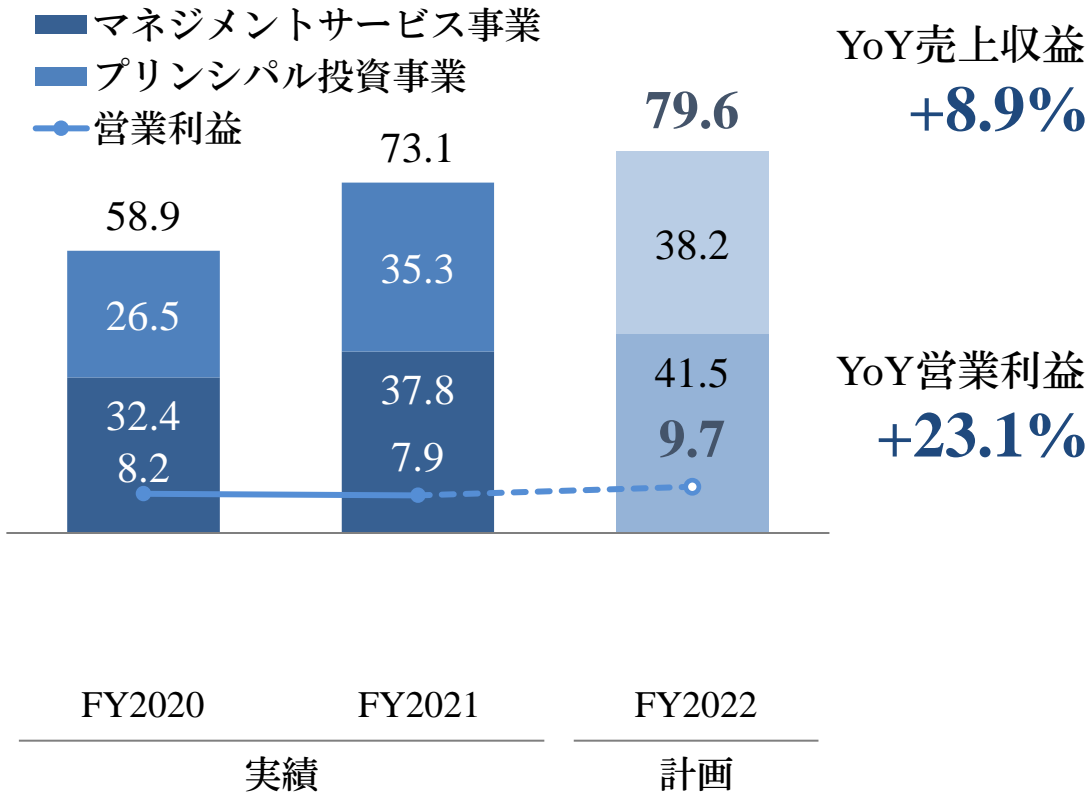




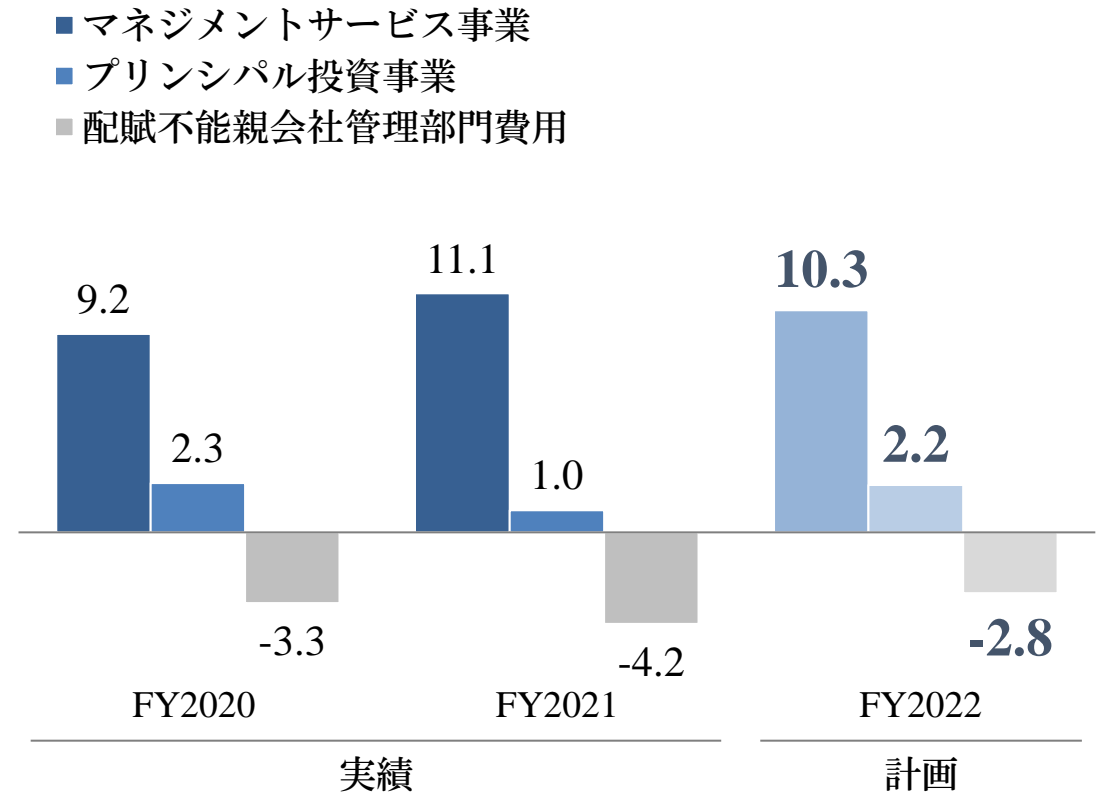
FY2022通期 グループ連結業績予想

FY2022通期グループ連結業績は、期初において売上収益79.6百万米ドル (86.8億円*)、営業利益9.7百万米ドル (10.6億円*) を開示。急激な円安の影響は大きいものの、新たに承継した動物病院事業 (アニマルメディカ) による増収なども含め、米ドルベースでの期初業績予想を維持

売上収益・営業利益 (百万米ドル)



セグメント損益 (百万米ドル)



*日本円への換算は、1ドル = 109.70円 (当初計画作成時点の為替レート) により計算

質疑応答



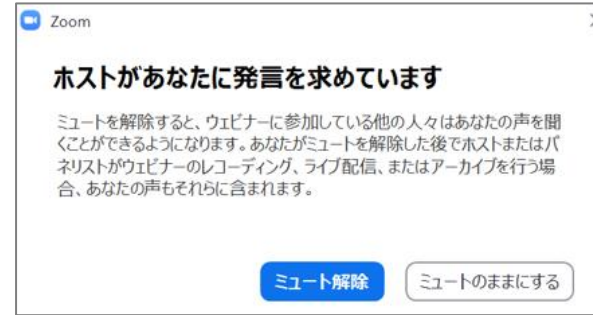


ご質問方法 (オンラインからご参加の方)

■ ご発言



「手を上げる」を押下ください

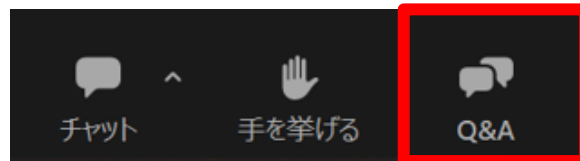


事務局でご指名後、上記画面が表示されましたら「ミュート解除」を押下し、ご発言ください



ご質問終了後は、「手を降ろす」を押下ください

■ テキスト



「Q&A」を押下ください



Q&A入力画面が表示されます



質問をご記入の上、「送信」を押下ください



IRニュースレターのご案内

当社グループの最新IR情報をお届けいたします。

ぜひ、当社ホームページ (<https://ycp.com/ja>) の「IRトップ」ページから
ご登録ください。

IRトップページへのURLリンク：

<https://ycp.com/ja/investor-relations/ir-top>

IRニュースレターのご購読はこちらから

YCP Holdingsの投資家向けレポートや最新情報をお届けします。

氏名

メールアドレス

購読する →

当社グループは、個人情報の保護に配慮しています。詳細は[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。

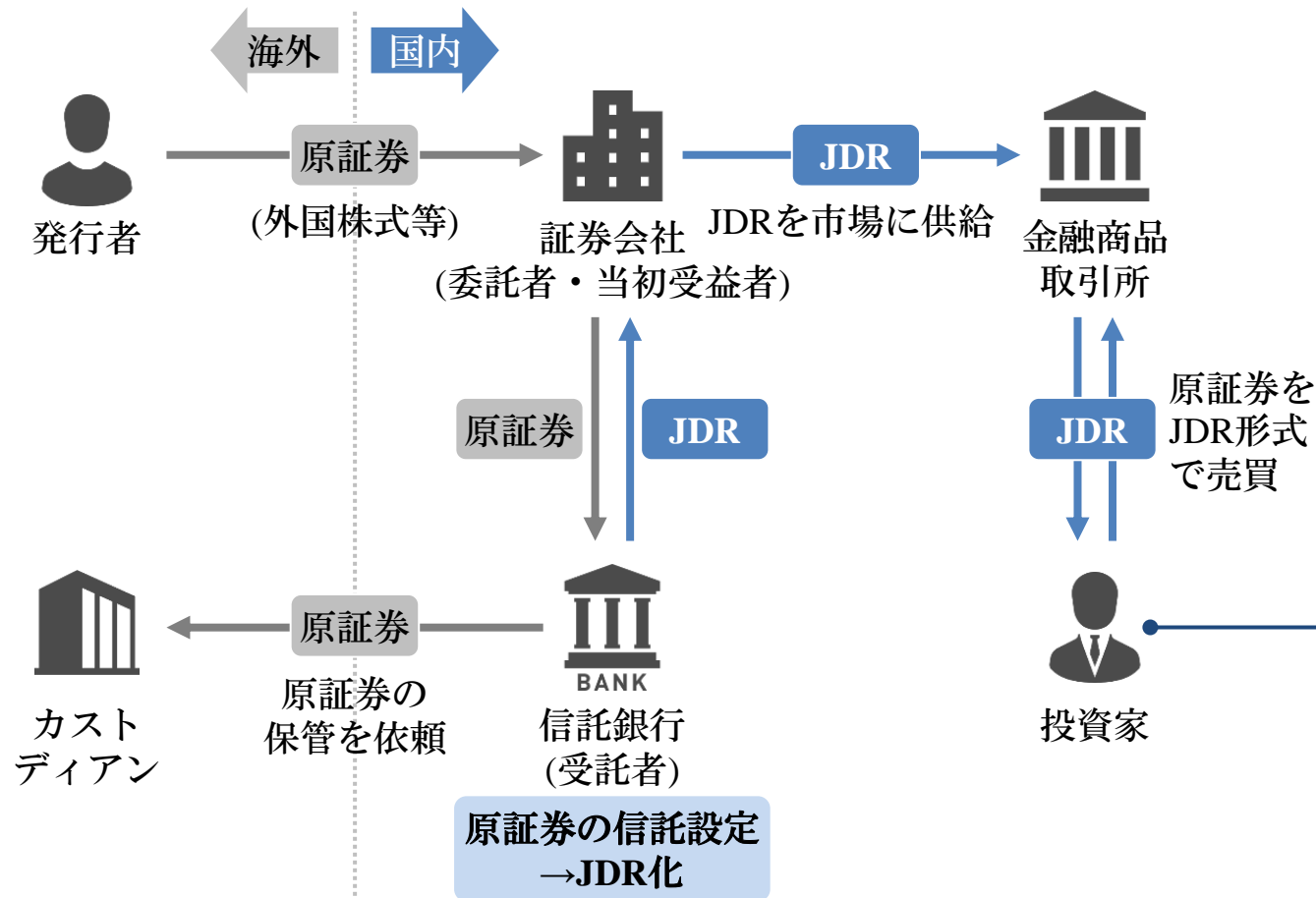
Appendix





JDR (日本型預託証券) とは

JDRの発行スキーム*



JDRのポイント

取引	<ul style="list-style-type: none"> • 全国の証券会社を通じて売買可能 • 特定口座の取引対象となり、外国証券取引口座の開設も不要 • 日本円による決済・分配金受け取り • 税制も国内株式と同様
株主総会	<ul style="list-style-type: none"> • 発行会社の株主はJDR受託者(信託銀行)となるため、JDR投資家は、株主総会には出席できないが、発行会社実施するJDR投資家説明会等で対話が可能
議決権行使	<ul style="list-style-type: none"> • JDR投資家は原株式の議決権を直接行使することはできないが、JDR受託者に対して議決権の行使指図を行うことにより、間接的に議決権を行使することが可能

*日本取引所グループホームページ掲載のJDRの発行スキーム(例)より引用。 <https://www.jpx.co.jp/equities/listing-on-tse/new/basic/05.html>

